

算数科学習指導案

令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時

〇〇〇小学校

4年〇組 (〇名)

授業者 〇〇 〇〇

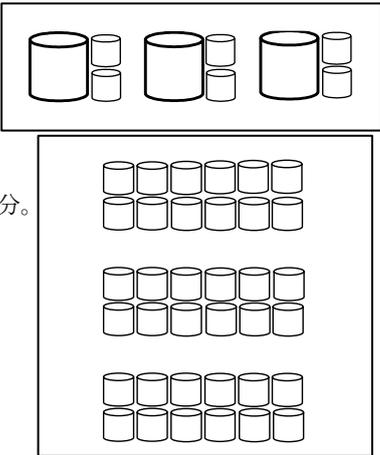
<単元・題材名> 小数のかけ算とわり算		<学習指導要領上の位置づけ> A 数と計算 (5) ウ	
<育成を目指す資質・能力> ○計算の意味や計算の仕方を、既習の計算と関連づけて捉えようとする態度 ○既習の整数の計算を基に考え、図や式を用いて答えを求めたり、計算の仕方を説明したりまとめたりする力 ○商が小数になる場合の計算をする技能 ○商が小数になる場合の計算の意味や計算の仕方についての理解			
<単元の目標> ◇小数×整数、小数÷整数、整数÷整数で商が小数になる場合の計算の意味や計算の仕方について理解し、それらの計算ができるようにするとともに、小数の理解を深めるようにする。			
評価 規 準	関心・意欲・態度	小数×整数、小数÷整数の計算の仕方を、既習の整数の乗法、除法計算と関連づけて考えようとしている。	
	数学的な考え方	既習の整数の乗法、除法計算を基にして、小数×整数、小数÷整数の計算の仕方を考えている。	
	技能	小数×整数、小数÷整数の計算をすることができる。	
	知識・理解	小数×整数、小数÷整数の計算の意味やその計算の仕方を理解している。	
児童 の 実 態	(省略)		
指 導 方 針	○小数の乗法や除法を正しく計算できるようにするために、一方的に伝達するのではなく、既習事項を基にやり方を自分たちで見つけ出し、理解していく過程を大切にする。 ○小数の構成を理解できるようにするために、具体物や数直線図などを場面に応じて利用できるようにする。 ○説明する力を伸ばすために、単元を通して式の表す意味や、計算の仕方を説明する機会を多く取り入れる。 ○自分の考えをもつことが苦手な児童のために、図などを準備し、考えをもてるように支援する。		

小単元計画

過程	時間	ねらい	評価			
			関	考	技	知
	1~5	小数のかけ算 5時間				
であ う	6 本時	小数÷整数の計算の仕方について、既習事項を基に考え説明するとともに、小数の除法について問いを持つことができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">小単元の課題: 小数÷整数の計算は、整数÷整数の計算と同じようにできるだろうか。</div>		○		
追 究 す る	7	10分の1の位までの小数を1位数でわる筆算の仕方を考え、その計算ができる。		○		
	8	10分の1の位までの小数を1位数や2位数でわる筆算(商が純小数になる場合を含む)の仕方を理解し、その計算ができる。				○
	9	100分の1の位の小数を1位数や2位数でわる筆算の(商が純小数になる場合や被除数の場合を含む)の仕方を考え、その計算ができる。		○		
	10	小数÷整数で余りを求める計算で、余りの大きさについて理解し、その計算ができる。			○	
	11	整数÷整数でわり進みをするときの筆算の仕方を考え、その計算ができる。		○		
	12	小数÷整数でわり進みをするときの筆算の仕方を理解し、その計算ができる。商を概数で表すことができる。			○	
	13	小数倍の意味について理解する。				○
つ か う	14	日常生活の問題に取り組み、既習事項を使って計算することができる。	○		○	
	15	問題に取り組み、単元のまとめをする。				

本時の展開（6／15時間）

ねらい：小数÷整数の計算の仕方について、既習事項を基に考え説明するとともに、小数の除法について問いを持つことができる。

準備	掲示物（既習事項確認用紙、数直線の図、ヒントカード）	
時間	学習活動 (発問と予想される児童の反応)	○指導上の留意点及び支援 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
5分	<p>1. 新たな学習内容に触れ、めあてを設定する。</p> <p>【問題】水が 3.6L あります。この水を 3 人で等分すると、1 人分は何 L になりますか。</p> <p>T：どんな式になりますか。 S：3.6÷3 S：3 人で等分するから、わり算になる。 S：1 人分を求めるからわり算になる。 T：さっきの計算と違うところはどこかな。 S：わられる数が小数になっている。 S：小数の割り算はどうやってやるのかな。</p> <p>【めあて】小数のわり算の計算の仕方を考えよう。</p> <p>T：どうすれば計算できるかな。 S：整数÷整数なら計算できる。 S：L を dL に直せば計算できそう。</p>	<p>○わり算の意味を確認するために、先に 6 L の水を 3 人で等分した場合の 1 人分を考えさせる。</p> <p>○立式の手助けになるように、図を提示する。</p> <p>○ただ単に 3 人に分けるだけではわり算にならないことにふれ、3 人に等しく分けるからわり算になることを確かめる。</p> <p>○児童とのやりとりを通してめあてをつくり、本時のめあてを全員で共有する。</p>
6分	<p>2. 既習の知識及び技能、経験を基に個別に追究する。 (予想される考え)</p> <p>①3.6L を 3 L と 6 dL に分けて考える。 3 ÷ 3 = 1 (L) 6 ÷ 3 = 2 (dL) あわせて 1.2L。</p> <p>②3.6L = 36dL 36 ÷ 3 = 12 12dL = 1.2L</p> <p>③3.6L は 0.1L が 36 こ分。 36 ÷ 3 = 12 1 人分は、0.1L が 12 こ分で、1.2L。</p> <p>(予想される誤答) S：36 ÷ 3 = 12 1 人分は、12L S：1 人分は、12dL</p> 	<p>◎本時の学習に全員が取り組めるように、既習事項を事前に教室横に掲示しておき、考えが進まない児童にはそこを見ながら考えられるようにしておく。</p> <p>○多様な考え方を引き出すために、やり方一つではないことを伝え、いろいろな考え方に気付くようにする。</p> <p>◎やり方がわからない児童の思考を助けるために、考え方の一部や一つ目の式を早くできている児童に板書させる。</p>
17分	<p>3. 全体で共有する。</p> <p>考え① S：3.6L を 3 L と 6 dL に分けて考えたんだな。 T：図で説明できるかな。</p> <p>考え② S：dL に直して考えたんだな。</p> <p>考え③ S：0.1L をもとにして考えたんだな。</p>	<p>◎単位を L で表すために、1 dL = 0.1L であることを想起させ 2 dL = 0.2L を確認する。</p> <p>○全員が説明を理解できるように、発表を途中で区切って続きを他の児童に言わせたり、繰り返し説明させたりする。</p>
5分	<p>4. 新たな学習内容と関連する既習の内容との共通点や相違点を見いだす。</p> <p>T：3つの考えを比べてみて気付くことはありますか。 S：答えがすべて同じです。 S：考え②と③は 36 ÷ 3 の計算をしています。 S：考え②と③は 3.6 を 10 倍した式になっています。 S：できた計算はすべて整数÷整数です。</p>	<p>○既習事項を活用していることに気付けるように、共有した考えの共通点に着目させる。</p>

<p>12分</p>	<p>5. 学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【まとめ】小数のわり算でも、整数に直して計算することができる。</p> </div> <p>6. 適用問題に取り組む。</p> <p>・ $8.4 \div 2$</p> <p>7. 本時を振り返り、単元の課題を立てる。</p> <p>T: 今日の授業でわかったことや疑問などを書いてみましょう。</p> <p>S: 難しそうだったけど、小数が出てきても、整数のときと同じように計算できそうだな。</p> <p>S: 割りきれないときは、どうするのか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>小単元の課題: 小数÷整数の計算は、整数÷整数の計算と同じようにできるだろうか。</p> </div>	<p>○児童とのやりとりから、児童の言葉でまとめられるようにする。</p> <p>○多様な考え方を理解できるようにするために、自分が使わなかったやり方でも説明ができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇評価 小数÷整数の計算の仕方を図や式を用いて考え、説明している。 (発言・ノート)【数学的な考え方】</p> </div> <p>○学びの自覚を促すために、今日できるようになったことや、もっと知りたいことなどを書くようにする。</p>
------------	---	--